

# 滋賀銀行が「仮差押」物件に融資 「ヤミの構図」深まる

## 近畿財務局、滋賀銀行要請レポート

5月18日 甲良町議会議員 西澤伸明

名神彦根インター横に建設予定の巨大ギャンブル施設に反対する運動を続けておられる徳永博さんらは、去る5月17日、ギャンブル施設誘致を進める地権者団体の人物らに滋賀銀行が実行した異常な融資の実態について、近畿財務局理財部金融監督第1課の永山調査官、山西事務官と面談し、調査の要請を行ないました。更に滋賀銀行本店に向き、顧客室長奥出正史氏とも面談し、事実確認の要請を行ないました。

私は「ギャンブルでまち興し」という発想そのものが間違っていると考え、一貫して反対してきた一人として徳永さんらに同行しました。

以下は、要請の概要報告です。

ご存知のように4月の彦根市長選の折には、中島一前市長が同意した場外船券・車券売り場建設に賛成か反対か、重要な争点のひとつになりました。獅山新市長は10日の就任と同時に「同意」撤回を業者に書面にて通告され、誘致断念に向け一步を踏み出したところでした。

この巨大ギャンブル施設誘致をめぐるのは、4月20日の国土交通委員会で穀田恵二衆議院議員（日本共産党国対委員長）が、「借金返済のための事業計画」の疑いが強いなどと「ヤミの構図」の一端を示し「こんなデタラメな土地の上に許可をすれば国土交通省の汚点になる」と追求。国会の場で、JA 東びわこ農協などとともに滋賀銀行が名指しで、ギャンブル施設の資金提供機関として紹介され、関係者に大きな反響を巻き起こしています。

登記簿謄本などの調査を総合すると、JA 東びわこ農協から今年1月30日「仮差押」を受けた物件を担保にして滋賀銀行が本年3月30日と4月13日に1億6千万の融資を実行していたのです。この巨額融資をめぐるのは一支店の裁量ではとてもできず、本店幹部の関与がなければできないと見られています。徳永会長らは登記簿謄本などの資料を示しながら、「仮差し押さえを受けたという事実は返済能力が困難に陥っている決定的な物証、ヤミ金業界ではいざ知らず、通常では、別の金融機関から、競売にかかる可能性のある物件を担保にした融資はありえないこと。融資名目はどうであれ、不自然千万ではないか、と疑問を投げかけました。また「4月の市長選挙でギャンブル施設誘致反対を掲げる市長を彦根市民が選んだのです。地域経済の振興を主題としている滋賀銀行が不可解な資金提供を続けているは重大問題ではないか」などと指摘。国挙げて不良債権処理に取り組んでいる最中に「実質破綻先」に融資を行なったことは法にも反する疑

いがあるなどと、法に基づく調査を求めました。

これに対して永山調査官は次のように応答。

仮差押があったとしても、また赤字だから、即「不正融資」と断定できない、別の業務による返済能力の見通しや金融機関の経営裁量ということもある。私どもは犯罪の捜査機関ではないので立ち入ることはできない。銀行法など諸法律に基づく調査が必要かどうかの判断をさせてもらう。その場合どのような調査をしたかも含め、お答えできない。ただ情報公開に基づき開示請求ができます、と。

国の銀行監督庁が「いただいた資料に基づく調査」を約束してくれたことはひとつの成果です。

滋賀銀行本店においても同じように資料を提示し、「公開された資料から見ても、A氏はギャンブル施設誘致を進める中心人物とともに誘致関連団体に名を連ねて深いつながりをうかがわせ、疑問の多い融資だ。とりわけ、別の金融機関から仮差し押さえの処分を受けた経営者が追加で融資を受けるとするのは通常では考えられない。裏の事情があるのか」「まさに破綻先への追加融資の疑いがある」「バブルで踊らず、資本注入も受けなかった“優秀な”滋賀銀行は傾いた経営者にすべからず資金提供されるのか」などと、実態の調査を求めました。

対応した顧客室長の奥出氏は、おっしゃることは良くわかりました、私どもは社会の公器ですから地域の皆様に信頼される業務を行なうことが基本です、と応えました。

徳永氏らは『社会の公器』に反する事実が確認され次第、引きずることなく、速やかに是正してほしい」と要請しました。

巨大ギャンブル施設が彦根市民はもちろん、周辺住民にも多大な影響を及ぼすことは容易に予想できます。「場外船券・車券売り場に反対する会」は青少年健全育成への悪影響、交通渋滞、治安の悪化などを理由にかかげています。何よりも「ばくち」で「地域の活性化」「雇用の創出」という根底がまちがっていると思います。場外馬券売り場から今回の船券・車券売り場誘致への火種が残る根っこの一つに資金提供をめぐるヤミの構図・借金返済目的がからんでいると言われてきましたが、その一角がまた一つ明らかになったのではないかと思います。

「地域活性化複合事業」の計画・出発の段階からウサン臭い「ヤミの動機」が絡んでいる問題を追及し、彦根市および周辺に「ギャンブル施設はいらない」の住民運動をさらに大きくし、最後まで断念に追い込むまで微力を尽くしたいと思います。みなさまのご意見・ご要望などお寄せいただければ嬉しく思います。